

“桜伐る馬鹿梅伐らぬ馬鹿”という言葉がありますが、利用者Kさんの所有する東野の畑に梅の木があると聞き、梅見がてら梅の枝をいただきに伺いました。それを見ながら作った貼り絵がこちら。



3月3日桃の節句、今年はどんな風にお祝いしようかと考えました。お昼は定番のちらし寿司を皆さんで作し、「楽しいひな祭り」を歌って甘酒で乾杯。



午後からはお寿司をもってお隣に伺いました。

Iさんご夫妻のお宅には、Iさんのお母様が贈ってくれたという道具付きの立派な7段のお雛様があります。

毎年、「どうぞ見に来てください」というお誘いを受けて利用者さんをお連れしていました。Iさんは今年から利用者さんになったのですが、来訪するとホストのお顔で皆さんをもてなしてくださいます。いわゆる“逆デイ”ですが、呼ばれた方たちもかしこまり「お邪魔いたします」と丁寧にご挨拶していました。どちらもすまし顔でしめやかに楽しい節句となりました。



翌4日はI先生による「救急講習」。医師であるI先生はずっとともの家のかかりつけ医でした。今はご夫妻で利用されているのですが、今も立派に“かかりつけ医”を務めてくださっています。調子の悪い人の様子を見てくれ、アドバイスされています。I先生には生涯現役でいただきたいと思います。

さて、3月も引き続き各職員が「お楽しみ行事」を企画しました。

- ・焼きそばづくり
- ・おはぎづくり、七輪による焼き芋、焼き餅
- ・見奈良菜の花畑
- ・道後公園散策
- ・俳句の壁面制作
- ・中庭でバーベキュー

また今年は暖かく桜が3月半ばに開花したため、3月20日からの一週間は“桜週間”として「毎日花見」を日課にしました。散歩としては近くの溝辺公園、神前公園、浄水場、巖島神社、湯山中学校、岩堰（石手川公園）に。お弁当を持っていけないのが残念ですが、公園のベンチで休みながらゆっくり花を眺めました。



岩堰は毎年定番で、桜のトンネルを皆で歩き、赤橋を渡って川を眺め、石手川沿いのベンチで花見をします。この「歩く」という過程がとても大事。

自分の足で（歩けない人は車いすで）移動しながら楽しむ景色、花の香り、すれ違う人、一緒に歩く人の顔は忘れられない思い出になります。

「花の中で桜が一番好き」という T さん。この週間をとっても楽しんで、毎日東京の娘さんに電話をかけて「今日はここに行った、あそこに行った」と報告していました。

ドライブでは東温市や松山市街の桜並木をめぐりました。どこに行っても満開の花、花、花。日本人は本当に桜を愛する民なのだと思います。

26日は天武天皇に贈られたという西法寺の“薄墨桜”を見に行きました。

西法寺の駐車場から、境内までの坂道はかなりの急こう配。皆でフウフウ言いながら登りました。車いすを押しても押しても進まない！やっとのことでたどり着いた本堂で気品漂う桜の姿を拝み、甘茶を買って一服しました。さすが松山の名所。一度はおいで、です。

短い春を堪能し、日本の心に触れた気がします。



3月末日はバーベキュー。Rさん寄贈のドラム缶で作ったバーベキューセットが大活躍。

朝からみんなでおにぎりを作ったり野菜を切ったり、火をおこしたり協力します。

Rさん高級肉を持ってこっそりお手伝いに駆けつけてくれました。

ちょうど晴天で、青い空に爽やかな風。皆さん食が進んでいました。



2020度の吾も紅の行事は、これにてしめくくり。

撮り溜めた写真は年度末にアルバムにして利用者さん一人ひとりにプレゼントします。

今年度もたくさんの思い出が詰まった一冊になりました。

来年度も、楽しい一年でありますように！

